



慣例読みという迎合

柴生田 晴四

(経済倶楽部理事長)

▼前々号で「優生思想の残滓」という一文を書きました。この時タイトルに使った「残滓」が表現として適切かどうか、念のため辞書で確認しました。意味は問題ありませんでしたが、このことばが現在では「さんさい」と読まれているということを知って愕然としました。もともとは「さんし」であったものが、現在では「さんさい」という「慣例読み」が定着しているということなのです。

件に直面した直後だったので、念のため辞書に当たってみると、やはりというべきか、「きゅうどうしゃ」という「慣例読み」がいまや主役として鎮座していました。もともとは「ぐどう」という仏教の言葉が語源だと書かれています。インターネットを検索してみると、「ぐどう」は仏教用語であるから一般には「きゅうどう」と読まなくてはいけないと書いてある説明もありました。そもそも日本語にはインド仏教を語源とする表現がたくさんあります。他宗教に非寛容なあまり仏教を語源とする言葉を排撃する態度は日本文化の遺産である日本語を貶めるものです。▼やはりテレビを見ていて気になる言葉に「しょくにんきしつ」があります。れっきと

▼確かにサンズイを取り除いたツクリは通常「さい」と読みます。しかし、かつては読み書きのテストでこの熟語が出題されたら間違わずに「さんさい」は×を点けられたはずですが、いったいいつから、そして誰が、誤用を慣例読みに昇格させてしまったのか。誤用を誤用と言わずに慣例読みとして受け入れる態度は、私には無知への迎合であると思えませんが。▼平昌冬季オリンピックでは、日本選手の活躍にメディアがおおいに盛り上がりました。特に女子スピードスケート陣の活躍はまさに特筆に値するものでした。テレビで500メートルで下馬評通りに優勝を飾った小平選手を「きゅうどうしゃ」と評しているのを聞いて？マークが頭に浮かびました。「残滓」事

したアナウンサーがこの言葉を頻繁に口にしています。一方、「しょくにんかたぎ」はほとんど耳にしません。少し心配になったので、辞書で引いてとりあえず一安心。ちなみに「しょくにんきしつ」はインターネットのコトバンクでも、「間違いやすいことば」と明記されています。この部分の出典は朝日新聞社発行の「とっさの日本語便利帳」ですから、少なくとも新聞の世界ではまだ「しょくにんかたぎ」が生きているようです。

▼「言葉は時代とともにかわっていくものだ」と慣例読みを是認する考え方が学者の間にも少なくありません。しかし、日本語は重要な文化遺産です。間違いをただして正しく継承していく努力を怠るべきではありません。